発行：福生市生活環境部
協働推進課

❖男女共同参画情報誌❖

あなたとわたし

手をつなぎ　足もとしっかり　良い社会

vol.42
2013.8月号

家庭科から見える男女共同参画

中学校、高等学校での家庭科男女共修が実施されてから約20年が経ち、最近では「弁当男子」「育メン」などが話題に取りあげられるようになりました。こういった変化が単純に家庭科の男女共修と結びつくわけではありませんが、「生きる力」を育む家庭科から見た男女共同参画をお伝えするべく、福生市立福生第三中学校で家庭科の先生にお話を伺いました。

家庭科の主な歴史

昭和22年　新教科「家庭科」の創設。中学校では男女が選択可能な『職業科』の一科目となる。
昭和33年　「技術科・家庭科」に名称変更し、男女別のカリキュラムに。
昭和54年　国連の女性差別撤廃条約採択を受け、日本は同条約批准に向け男女共修への取り組みが始まる。
平成5年　中学校で家庭科の男女共修が実施（高等学校は平成6年から）

※男女共修とは、学校教育において、男女が同一のカリキュラムで必修科目として学ぶことを指します。

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、**今号の内容を要約した文字情報**を音声で聞くことが出来ます。専用の読み取り装置は市内の公共施設9か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

福生市立福生第三中学校の家庭科教員　大越先生にお話を伺いました

聞き手：市編…市職員と編集員 / 数名

中学校の家庭科でどんなことを学ぶのか

先生：ひとことで言うのはなかなか難しいですね。家庭科はとても多岐にわたる教科です。しかし、あえて言えば「自立と共生を目指して」生活する力、言い換えれば、生きていくための力、実践的な力を身につける教科ということです。将来を展望して、生活をよりよくしようとする態度の育成を目的にしています。

昨年度から学習指導要領（カリキュラムの基準）が新しくなりました。小学校では、「家族の一員」として自分にできることをみつけ、工夫して実行することを学びます。衣・食・住などの家庭生活や消費生活環境を学習します。家のお手伝いで、自分のできることを探してやってみる、というようなことです。

中学校では、小学校での学習を土台にして、より深く広く、家族の一員としての生活者、社会の一員としての消費者であることを学び、「自立と共生」の資質を身につけることを目指します。つまり将来、自立していくための基礎を学ぶということです。

自立とは、自分の生活を自分でできる、親にしてもらっていたことを、自分ひとりでもできる、一人前になるということです。もちろん、自分のことだけではなく、家族や地域のいろいろな人たちと支え合って生きる「共生」という考え方をもとに、社会全体のことを考える力も必要です。自分や家族のために働くのはもちろん、社会のために働く、生きるということです。

家庭科を通して子どもたちに伝えたいこと

先生：子どもたちにとって、家庭科は「調理実習と縫い物」というイメージが強いようです。「自立と共生」と言われても、なかなか実感しづらい子もいますが、家庭科は、人間として正しく生きていくために、とても身近な、大事な勉強です。子どもたちには「ずっと子どもではいられないよね、一人前の立派な大人になってもらうための勉強だよ」と言っています。衣・食・住など家庭生活や消費生活環境の学習を通して、生きる力、生活力を身につけてほしいと思っています。

また、今はモノが豊富な時代で、物質的には昔よりずっと豊かになっています。ですが子どもたちを見ていますと、手作りのよさをわかっていなかったり、生活の力も衰えていると感じることがあります。

生活する力は、学校の授業だけではとても伝えきれるものではありません。例えば包丁の使い方がうまくなるというようなことは求めていませんが、学校でキュウリの切り方を習ったから家でもやってみようなど、学校でやったことをきっかけとして興味関心をもってほしいと思います。

市編：先ほど、男子生徒に「学校で習ったものを家でも作ったりしますか？」と尋ねたら、「作る」ということでしたので、学んだことが生活の中でいかされているようですね。

男女共修からの変化

先生：家庭科が男女共修になり、２０年ほどになります。私が教員として採用された頃は、女の子だけの履修科目でしたが、３年目あたりから男女共修になりました。当時、男の子は「こんなの意味あるのか？」「何で俺らはこんなことやらなくちゃいけないんだ」とよく言っていました。そういう疑問を投げかけられたのを覚えています。

でも今では、そういうことを言う子はいません。社会の流れもそうですが、女性もいろいろな職業に就くなど、男女の違いがなくなってきているし、男の子も家事をやって当たり前という意識があるようです。家

た。

庭の中でもそういう雰囲気なのかなと思うのですが、抵抗なく一生懸命取り組んでいます。

家で家事をやっていない子も、かえって新鮮なのか、興味をもって取り組んでいます。

一方、女の子の意識はあまり変わらないように思いますが、昔の子より技術的なことが身についていないように感じます。

調理実習のときなど、男女の差なく家でやっている子とやっていない子はわかります。言われなくても、片付けなど手際よく動く子と、言われてはじめて気づく子といます。

調理実習では

先生：最近の子どもたちの食生活は魚離れと言われています。ですので、なおのこと魚は丸ごと調理させたいと思っています。実習では、サンマを班に２尾ずつ用意して、頭を落として、内臓を抜いて、ぶつ切りにして「生姜煮」を作ります。こういう大胆な作業は、女の子より男の子のほうがパッとやってくれます。女の子は黙って取り組む子もいますが、「キャー、キャー」言って手を出さない子もいます。男の子は魚を躊躇なくさばき、内臓もよく見て「先生これが心臓かな」と言ったり、興味をもちますね。

３年生になると「食文化を見直す」という授業で、節分の頃に海苔巻作りをしたりしますが、「俺にやらせろ～」と、男の子がわりとやりたがります。

市編：調理実習のなかで普段からやっている子はわかるということですが、それは女の子が多いですか？男の子も家庭でお手伝いをしているようですか？

先生：多少は女の子の方が動きがよかったりしますが、男の子でも私が言わなくても、布巾できちんと流しの中の水気を拭く子もいます。「生ごみはどこに捨てるんですか？」なんて、私が忘れていると生徒から言ってくれたり、あまり違いがなくなってきたような気がします。家庭でお手伝いをしているのもあるかもしれませんが、小学校での学習の成果も感じます。

このごろ福生市は小中学校連携をすすめていて、先日もその一環で、小学校の調理実習を見学してきました。丁寧に調理実習を指導されていると感じましたのでそれも土台になっていると思います。

家庭科の多様な学びから

先生：家庭科の授業内容は、昔より広範囲になった分、浅くなったところもあります。例えば裁縫の授業では服を作るという複雑な作業から、エコバッグのような簡単なものを作ればよいというようになりました。モノ作りなどが浅くなってしまった一方で悪質商法にだまされないことなど、消費者教育なども実施しています。

消費生活センターやクーリングオフの制度を知ることは生活していく上で重要だと思います。また、教科書には詳しく載っていないのですが、クレジットカードのことも深く学びます。

また、３年生になると、幼児の心理や子育てなどを含めた家庭生活全般について学びます。

「最近、幼児虐待など昔はなかったような悲しい言葉が頻繁にでてくるけれど何故だろう？」「赤ちゃんポストというものがあるけれど、どう思う？」などと問いかけたり、「お父さん、お母さんになった以上は責任をもって子育てはすべきだと思わない？」と伝えています。生徒によって、いろいろな家庭があるので難しい問題ではあります。

また子どもの権利条約・子どもの人権についても学

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、**今号の内容を要約した文字情報**を音声で聞くことが出来ます。専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

びます。子どもは社会全体で育てなくてはいけない存在であり、自分の子どもだけではなく、世の中の子どもたち全員を守っていけるような大人になってほしい、という話をしています。

また、「みんなは未成年だから、何かあったら相談できる立場にあるんだよ。」ということも伝えています。具体的には児童相談所や様々な子育ての場、福生市の子ども応援館などを教えています。「いざとなったら相談に行ってね。」ということを話しています。

市編：子ども自身、どのようなことが虐待か、わかっていない場合もありますし、授業で相談できるところや助けてくれる場所を知ることは、とても大切ですね。

女の子も技術科を学んで…

市編：技術科はどのようなことを学びますか？

先生：木材加工をしたり、金属加工をしたり、電気のことやパソコンのことも学習します。「女の子も抵抗なくするようになってきている。のこぎりでの作業も楽しんいるようで、“こんなの学べてよかった！”という感想が聞かれる。」と技術科の先生もおっしゃっていました。

1・2年生は1週間に1時間ずつ技術科も家庭科もあります。年間授業時数で言いますと、技術科と家庭科を合わせて、1・2年生は70時間ですが、3年生になると35時間で半分になってしまいます。本当は減らしたくない教科ですが残念です。

男女が共に助けあう社会の実現に向けて

先生：家庭科の狙いは、学習指導要領の中にある**「これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てること」**にあります。

これは子どもたちがこれからの生活を作りあげていくなかで、明るく考えて生きていってほしいという願いがあると思います。ほんのちょっとした小さなことでいいのですが、楽しさを生活のなかで見つけてほしいと思います。それは男女が協力して明るい家庭を築いていくことにもつながります。家庭科は前向きな人生を送ってもらうために役に立つ教科だと思います。

将来を前向きに考え、生活をよりよくしようとする力をつけることが家庭科の役割。課題を解決していく能力、課題解決能力と言いますが、その力をつけてあげたいと思います。

市編：20年前と比べ男の子の反応も違ってきたと伺って、よい方に向かっていると思いました。

先生：「育メン」とか「男の料理」とか男性もそういう方向に向いてきていますよね。家事は素敵なこと、楽しいことであって人間として生きていくために必要なことで、女性だけがすることではないと伝えたいです。

インタビューを終えて…

本誌では「男性はこうあるべき、女性は家の中のことをするべき」といった性差に基づく役割意識がまだまだ世間の風潮としてあり、それが個人の生き方にまで大きく影響を及ぼし、様々な問題がおきていることを取りあげてきました。

今回お話を伺って、家庭科などの教育現場で男女共同の考え方を子どもたちに教えてきた効果が次第に現れてきていると実感できました。

取材にご協力くださったみなさん、ありがとうございました。

広告を募集しています！ 次号は11月発行予定です（全戸配布）

「あなたとわたし」に掲載する広告を募集しています。
【規格】 4.5センチ×9センチ。各号2枠
【広告料】 1枠：15,000円
※申込み用紙は市のホームページからダウンロードできます。内容により広告掲載できない場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。
【問合せ】福生市生活環境部協働推進課　℡ 551-1590

市民編集員　○輿水和代　○寺﨑敏枝　○濱原幸恵

企画編集　NPO法人 NAFA子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.42　2013年8月号
発行：福生市 生活環境部 協働推進課
〒197-8501 東京都福生市本町5番地　電話 042-551-1590
http://www.city.fussa.tokyo.jp/